婚姻関係から見る戦後開拓地の変容
―鳥取県大山町香取村を事例として―

環境学部 ４年 齊籐 拓恵

 本研究は、第二次世界大戦後に行われた開拓事業によって、中国山地にある大山の北側に入植した香
川県出身者を中心とする開拓団、通称香取村の一世から現代までのアイデンティティの変容を婚姻関係
に着目して検証した。また、本研究では、地理学における戦後開拓地研究の研究対象地の偏在解消の一
助を目的とし、聞取り調査から得た質的データを基に戦後開拓地を解釈した。
 香取村は、鳥取県大山町の南側に位置する戦後開拓集落である。2022 年 4 月から 2023 年 2 月にかけ
て、香取村で複数回の聞取り調査をおこなった。また、香取開拓農業協同組合発行の開拓記念誌を参考
に、各種資料を基に研究を進めた。
 聞取り調査から 5 軒の家族の成り立ちを明らかにした。聞取り調査から得た質的データから香取村が
行った約 70 年の開拓の様子が明らかとなった。時代の流れに翻弄されながらも、大山の地で生きるため
に様々な策を展開した。人々のアイデンティティは、開拓当初は香川県のアイデンティティが強かった
ものの、時代を経るにつれ鳥取県のアイデンティティ・他県のアイデンティティが婚姻という形で混在
し、現在の香取村独自のアイデンティティを確立したと推察された。